

第13回 会長の時間 「世界ポリオデー」につきまして H28.10.27

10月23日に米山奨学生の曹 伴鵬 君と一緒に神吉幹事の畑で芋堀をさせて頂きました。広島での地区大会も迫っておりますが、去る10月24日は「世界ポリオデー」でした。この日は、ポリオワクチンを発明したジョナス・ソーク博士の誕生日であります。4年前よりロータリーは、この「世界ポリオデー」を記念して、ポリオへの意識を高めることともに、ポリオ撲滅に必要な募金を集めるために世界各地でイベント開催しています。本日は、今年度RI会長のジョン ジャーム氏が特に力を注がれているポリオの現状についてお話しします。

ポリオとは、ポリオウイルスが腸内で増殖して発症する病気で、乳幼児に多く、主に手や足に麻痺が現れることから「小児まひ」とも言われます。ポリオは感染し発症すると、後遺症としての「まひ」が残り、命を落とすこともある恐ろしい感染症です。感染しても発症するのが200人に1人といわれているため、気づかぬうちに感染が広がっていきます。発症してしまうと治療法がなく、ワクチンを接種することが唯一の予防法です。

ロータリーの資料によりますと、世界ポリオ撲滅推進計画（GPEI）が立ち上がった28年前、世界125カ国で35万人のポリオの子どもたちが確認されましたが、1988年以降、25億人の子どもたちがポリオの予防接種を受けています。また予防接種活動の前線でワクチンを届けた保健員は、2,000万人にのぼるといわれ、こうした世界的な取り組みによって、1,500万人以上の子どもたちがポリオによる麻痺から守られました。こうしたワクチンの普及によって、私たち国際社会は、1988年以降、ポリオ発症例を99%も減少することに成功し、2015年12月末の段階で、ポリオの発生数は、パキスタン、アフガニスタンの2カ国までに減少していました。しかし残念なことに、2016年8月6日にポリオ常在国のリストから外れていたナイジェリアで3例の症例が発生しております。従いまして、現在のポリオ常在国はパキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアの3ヶ国になりました。今回のナイジェリアでのポリオ発生は、ポリオ根絶がなかなか困難であること示しており、このナイジェリアからのポリオ根絶に失敗すれば、10年以内に毎年20万人の新たなポリオ患者を生み出す恐れがあるといわれております。

しかし私たちロータリアンは、残り1%となったポリオを何とか根絶させなければ成りません。今まで取り組んできた国際ロータリーの活動とそれを支える多額の支援金の投入が無駄にならないようにこれまで以上に官民が一体となり、根絶活動を続けていくことが重要です。もしポリオの根絶が実現すれば、ポリ

オの予防接種は必要なくなり、地域経済の生産性が上がり、2035年までに500億米ドルを削減することができると見積もられています。こういったポリオ根絶への取り組みによる効果は、子どもたちを麻痺から守ることだけではありません。現場の保健員たちにより、地域の保健システムが強化され、これまで支援が届いていなかった多くの子どもたちの命が守れる保健サービスを受けられるようになっていることも忘れてはいけません。

最後に、今年度RI会長のジョン・ジャーム氏は、「ロータリーは今、岐路に立っています。来年度は、世界で最後のポリオ症例が報告される年となるかもしれません。そうなれば、ロータリーの歴史において最も重要な年となります」と述べています。来年度には、ポリオ撲滅は困難ですが、近い将来に叶うことを願ひまして会長の時間とさせていただきます。